コミュニティ行政研究会メンバー

	庁外研究会メンバー	庁内研究会メンバー	調査協力メンバー	事務局メンバー
	・林　泰義　計画技術研究所所長（座長） ・名和田是彦　東京都立大学法学部助教授 ・広田　康生　専修大学文学部助教授 ・内海　宏　プランナー・地域計画研究所代表 ・櫻井　淳　建築家・櫻井淳計画工房代表 ・吉田　洋子　宅地開発研究所横浜支所長	・村田　和義　戸塚区区政推進課調整係長 ・大木　節裕　市民局施設整備課担当係長 ・池戸　淳子　戸塚区市民課地域文化振興担当係長 ・関口　昌幸　神奈川区市民課社会教育係長 ・橋田　徹　金沢区課税課土地係 ・内山　隆　総務局区連絡調整課区行政推進担当係長 ・関山　誠　企画財政局企画調整室担当係長 ・坂和佳緒里　同右 ・犬塚善一朗　市民局区政課地域振興係長 ・大久保挙志　市民局施設管理課課長補佐担当係長 ・山田　雄二　教育委員会社会教育課振興係長 ・星崎　雅代　栄区区政推進課調整係長 ・宇都木　朗　瀬谷区区政推進課調整係長 ・小沢　朗　市民局区政課総合窓口・地域・まちづくり担当係長 ・花内　洋　市民局区政課区民利用施設担当係長 ・斉藤　功　市民局運営企画課担当係長	・高安　宏昌　鶴見区区政推進課調整係 ・村上　佳江　西区区政推進課調整係 ・関口　昌幸　金沢区区政推進課調整係 ・中野　俊明　港北区区政推進課調整係 ・渋井　和浩　港北区市民課地域文化振興担当 ・大野　緑郎　創和設計 ・直原　功　同右 ・原　正義　瀬谷区区政推進課調整係 ・五十嵐　隆　緑区北部支所区政推進課調整係	・横松　四郎　企画財政局企画調整室調査担当部長 ・古畑　正孝　企画財政局企画調整室調査担当課長 ・楠原　光一　企画財政局企画調整室調査担当係長 ・高橋　三男　同右 ・加藤　勝彦　企画財政局企画調整室調査担当 ・中川久美子　同右 ・桜井　悦子　計画技術研究所 ・早福　千鶴　同右 ・坂本　道弘　同右 ・美木由里香　櫻井淳計画工房
平成3年	○○○○○	○　○○○○○		○　○○○○　○○○
平成4年	○○○○○○	○　○　○○○○○	○○○○○○○	○○○○○　○○○
平成5年	○○○○○○	○　○○○○　○○	○○○○　○	○○○○○　○　○○

注）役職は当時、○印は係わった年度を示す。

あとがき

本号は、コミュニティ行政基礎調査の結果を中心として、コミュニティ施策のあり方を検討したものである。

三つの調査のうち、六地区のコミュニティ実態調査に最も多くのページを割いたが、地域コミュニティの実態へのリアルな認識なくしてコミュニティ施策のありかたを考えることは、不可能だと思えたからだ。調査は、コミュニティ行政研究会のメンバーと事務局が地区担当のグループを作り、区役所の協力も得て、ヒアリングを行い取りまとめた。

調査期間が二年間にわたっていることや、その間の区役所の機構改革など流動的な要素が多く内容はやや古くなってしまった箇所もあるが、地域の市民たちは、相変わらず、そこに住み続け同じ課題を抱えて生活しているという事実により、この実態調査の報告は掲載される意味があるだろうと思う。とくに、金沢区並木地区の調査は、今年度の六月から八月にかけて補足調査をしたために新しいデータとなっている。

それにしても、地域コミュニティの実状をリアルに正確に描くことは、予想以上に難しかった。市役所の本庁において企画された特定地域の調査の限界は、この広い市域ゆえに否応なしに感じざるを得ない。調査地点までの距離、ヒアリングにさける時間、地域の基本的情報量等々…。やはり、地域の市民に最も近い区役所職員が地域にでかけ、市民と付き合い、五感を使って地域コミュニティのリアルな動きと課題を伝える役割を担っていくべきではなかろうか。市民と行政のパートナーシップも本庁行政と地域コミュニティの課題とをつなぐ区役所の働きなくしては成り立たない。この調査がそのための呼び水となれば幸いである。また、ヒアリングに協力して頂いた多くの方々本当にありがとうございました。

〈中川〉

「調査季報」は職員が自由に意見を発表し討論する行政研究誌です。「行政研究」への投稿も歓迎します。二〇〇字詰五〇枚以内。企画局政策部調査課まで（電話六七一―二〇二九）。

「読者のページ」へもご投稿ください。市政、都市問題、自治体問題等、題材は自由。一〇〇〇字以内。